

令和7年度 第4回全国健康保険協会山口支部評議会 議事概要

開催日時：令和8年3月18日（水）16：00～17：30

開催場所：全国健康保険協会山口支部 大会議室

出席者：河岡評議員、國吉評議員、齊藤評議員、白井評議員、永見評議員、古川評議員、（五十音順）

議 題

1. 令和8年度都道府県単位保険料率について
2. 山口支部保健事業について
3. その他

1. 令和8年度都道府県単位保険料率について

資料に基づき事務局から説明。

《事業主代表》

資料1の2ページ目で示されているような全支部の保険料率をグラフで示すのがわかりやすくいいと思うが、こういった形では加入者に広報されていない。山口支部の健康保険料率が高いという立ち位置は、加入者に伝わっているのだろうか。健康保険料率が下がったと広報されているが、健康保険料率が高い支部、低い支部、そして特例措置で平準化された支部があるというのを見たときに、山口支部の加入者は納得できないだろうと思った。私は基本的に全国一律の健康保険料率にすべきと考えており、中東の問題や政治の問題で世の中が激変している中で、協会けんぽがこのような細かい作業をして健康保険料率を算定していることに虚しさを感じる。

《事務局》

今日は運営委員会資料として公表されている資料を抜粋していますが、実績や他支部との比較をどのように分かりやすく情報発信するか、支部でも工夫すべきと考えています。

《被保険者代表》

子ども・子育て支援金率について、会社で使用する給与システムではシステム改修がまだ追いついていないようで、子ども・子育て支援金率という項目が無く、

今のところ健康保険料率に子ども・子育て支援金率を加えて記載する予定だ。社員たちは保険料率が下がったというポスターを見て喜んでいるが、令和7年度の健康保険料率10.36%から、令和8年度健康保険料率と子ども・子育て支援金率をあわせて10.38%となり、給与明細を見たら「前より上がっているじゃないか」ということになりそうだ。介護保険料率も引き上げられ、総じて上がったという印象になるのかなと思う。

2. 山口支部保健事業について

資料に基づき事務局から説明。

《事業主代表》

人間ドック健診は最大25,000円補助があるということだが、健診機関によって負担額が異なるので、健診機関ごとにいくらで受診できるのかという数字を具体的に示してほしい。

《被保険者代表》

人間ドックに対応していない健診機関があるが、その理由はどういったものか。また、当社では山口県以外に居住している従業員が多く、従業員に人間ドック健診を紹介したところ、県外の人はどうしたらいいのかと質問が出たがいかがか。

《事務局》

山口県は医療系の健診専門機関がなく、胃カメラやエコーは入院・外来患者が優先され、余力で健診に対応している状況です。すでにキャパシティがいっぱいの病院が多く人間ドック健診を受け入れる余裕がありません。新規に胃カメラやエコーの機器とともに医師、技師、看護師を確保する必要があるため、採算も厳しいですが、人の確保が困難な状況にあります。受け入れるとしても数が限られており、予約を早くしていただくようお願いするしかない状況です。また、県外の被保険者については、生活習慣病予防健診と同様に他支部で契約している健診機関で受診できます。

《被保険者代表》

がん検診として、血液検査やピロリ菌検査もある。社内ではこのような検査方法の費用補助も今後検討いただけないかという声が出た。

《被保険者代表》

当社は関連会社も含めて120名ほどが健診を受けるが、当社の地域では健診機関が2か所ほどしかなく、検診車を利用している。現場の作業員は業務の都合

上、バリウム検査を受けづらく、従業員からは血液検査等でがん検診ができたらいいという声があった。そうすると、生活習慣病予防健診を利用する企業が増えるのではないかと思う。

《事務局》

生活習慣病予防健診は、基本的にはセットで健診を受けていただくことで被保険者の健康管理に寄与することを目的としており、今は早期発見で治せる病気も多くあります。令和6年度に付加健診の対象者を拡大したときに、健診受診に併せて有給休暇を使っていただくことを提案しました。その時に、検診車でのバリウム検査と、胃カメラに対応できる病院での健診の選択制も提案し、一部企業では休暇を新設したと聞いています。

3. その他

参考資料1－1、参考資料1－2に基づき事務局から説明。

なし。

以上